

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|--------|-----------------|---|------|-----|-------|--------|---------|----------------------|----------------|--------------------|------|----|
| 科目区分 | 専門教育科目 | 授業科目名 | 子どもと環境 | | | 科目コード | 26Y103 | 担当者 | 本村 弥寿子 | | | 担当形態 | 単独 |
| 対象学科・コース | 幼児教育学科 | 配当年次 | 1年次 | 開講学期 | 春学期 | 単位数 | 1 | 必修・選択の別 | 必修 | 免許・資格要件 | 幼稚園教諭必修、保育士必修 | | |
| 授業形態 | 講義 | 履修条件 | | | | | | | 教育職員免許法施行規則に定める科目区分等 | 科目区分 | 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | | |
| 実務の経験を有する教員担当科目 | 該当 | 実務の経験内容及び科目との関連 | 幼稚園と小学校の勤務経験がある。この勤務経験を基に領域「環境」のねらい・内容の実践について、また、小学校教育との連続性について授業を行う。 | | | | | | | 科目に含めることが必要な事項 | 領域に関する専門的事項（環境） | | |

| | | | |
|-------|--|--------------------------|---------------------------|
| 授業の主題 | 領域「環境」の指導に関連する、乳幼児を取り巻く環境や、乳幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身に付ける。 | 課題等への対応 (フィードバックの方法等) | 提出物は内容を確認し、授業で活用・紹介後返却する。 |
| 授業の方法 | 教科書・参考書を使用し、板書しながら講義形式で行う。授業内容に応じてグループ活動を取り入れる。 | アクティブ・ラーニングの実施方法 | |

| 回数 | 授業計画 | 事前・事後学修 | |
|-----|---------------------------|---|-----------|
| 第1回 | オリエンテーション 保育の基本と保育内容 | 要領や指針の第1章総則に目を通し、保育の基本について予習する。 | |
| 第2回 | 子どもを取り巻く環境① | 教科書第1章に目を通し、乳幼児と環境との関わりについて予習する。 | |
| 第3回 | 子どもを取り巻く環境② | 教科書第1章に目を通し、乳幼児と環境との関わりについて予習する。 | |
| 第4回 | 身近な環境との関わりと感性の育ち | 教科書第2章に目を通し、環境との関わりと感性の発達について予習する。 | |
| 第5回 | モノとのかかわりを通して生まれる育ち | 教科書第3章に目を通し、子どもと身近な物とのかかわりについて知識を得ておく。 | |
| 第6回 | 自然とのかかわりを通して生まれる育ち① | 教科書第4章p59～p66に目を通し、乳幼児にとっての自然の大切さを理解しておく。 | |
| 第7回 | 自然とのかかわりを通して生まれる育ち② | 教科書第4章p66～p73に目を通し、乳幼児にとっての自然の大切さを理解しておく。 | |
| 第8回 | 社会とのかかわりを通して生まれる育ち まとめ | 教科書第5章に目を通し、乳幼児と社会とのかかわりについて予習する。 | |
| | | 事前・事後学修時間 (分/授業1回) | 180分/授業1回 |

| | | | |
|---------------------|--|------------|--|
| 教科書 [書名/著者名/出版社] | 新しい保育講座 保育内容「環境」/久保健太・高嶋景子・宮里暁美/ミネルヴァ書房 | 受講生へのメッセージ | 保育は環境を通して行うものです。乳幼児にとって意味のある環境とはどのようなものなのかも考えましょう。 |
| 参考書 [書名/著者名/出版社] | 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領/文部科学省・厚生労働省・内閣府/チャイルド本社 | | |

